



Analytical Sciences 誌のプレゼンス向上 にぜひご協力を！

久 本 秀 明

昨年より、Analytical Sciences 誌副編集委員長を拝命しております。
現在本誌は東大の小澤岳昌先生を委員長とし、副委員長の私および 31 名の編集委員、事務局のメンバーで運営しております。

近年、本誌を取り巻く環境は新たな局面を迎えております。昨年、このページに小澤先生も書かれておられましたが、現在、既存の分析化学および関連分野の雑誌のみならず、新興のオープンアクセスジャーナルが多数刊行されてきており、学術ジャーナルはまさに戦国時代に突入しております。海外の学会・出版社でも戦略的により論文を集められるよう、国際会議でのジャーナルプロモーションや有力雑誌の取り込み等、様々な取り組みを進めています。そのような中、本誌のプレゼンスを今以上に向上させていくためには、これまでできなかった多くの取り組みを進めていく必要があります。幸い、昨年応募した科研費「国際情報発信強化」が鈴木会長、小澤委員長、田巻事務局長がご出席されたヒアリング審査を無事に通過し、平成 28 年度から 5 年間分の経費を支援して頂ける予定です。今後はこの科研費を有効に活用しながら申請書で提案した数値目標（5 年後のインパクトファクター 2.5 倍、掲載論文数 2 倍など）の達成に向けて、様々な取り組みを進めてまいります。

現在、Anal. Sci. 誌は年間約 600–700 程度の投稿があり、約 200 報前後の論文が掲載されております。本誌では昨今問題化している剽窃^{ひょうせつ}の問題を解決するために、2013 年からすべての投稿原稿を剽窃検知ソフトでスキャン後、一定の基準をクリアした論文のみを編集委員に送り、審査プロセスに入るシステムをとっております。その審査プロセスでは最低 2 名以上の有効な審査意見を著者にお送りして掲載論文の revise が行われ、場合によっては編集委員と著者の間を 2 往復も 3 往復もする場合があります。最終的には事務局による校閲および英文校閲を経て、掲載に至ります。

この仕事を始めてから改めてわかったことがございます。それは、現在本誌に掲載されている論文は、上記のような編集委員・事務局の皆様の強力な御尽力により、掲載論文内容が確実に良くなってきているということです。また、よい論文が掲載されているにもかかわらず、見過ごされているようにも思えます。

現在論文をご執筆中の会員の皆様におかれましては、いまずぐ Anal. Sci. 誌の HP にアクセスしていただき、“Search Google :” の枠中に“Analytical (スペース) Science (スペース) 皆様のご研究のキーワード”を入力して検索してみてください。きっと引用すべき多くの論文に出会えることと思います。

ぜひ会員の皆様におかれましては本誌の現状をご理解いただき、本誌へのご投稿のみならず、本誌に掲載されている論文の積極的な引用に基づいたプレゼンス向上にご協力賜ればと思います。

何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

Hideaki HISAMOTO, 大阪府立大学大学院工学研究科,
「Analytical Sciences」副編集委員長